

よこすか海辺ニュータウン ソフィアステイシア（神奈川県横須賀市）

1. よこすか海辺ニュータウン ソフィアステイシア地区の概要

(1) 地域特性など

- ・ソフィアステイシア 神奈川県横須賀市平成町1丁目 4棟、309世帯、約1,000人
- ・よこすか海辺ニュータウンは総面積61haの埋立地であり、職・住・遊・学の諸機能が融和した海辺の複合リゾート都市にふさわしい生活環境が整い、マンション・商業施設、企業、大学等が立地。
- ・EL（Elevation level 標高）＝TP（Tokyo Peil 東京湾平均海面）＋1.9m～3.0m
- ・埋立地であるため、地震動の増幅・津波・液状化・地盤沈下のリスクが極めて高い。



地区の位置図

- ・「よこすか海辺ニュータウン」（定住人口6,000人・1,850世帯）の人口構成は、全住民が2000年以降に竣工したマンションに居住しているため、横須賀市全体に比べて若い世代が多く、高齢化率は14%未満の若く活力のあるまちとなっている。

(2) 地域の想定災害など

- ・埋立地であるため地震による揺れが大きく、三浦半島断層群（衣笠、北武、武山断層）を震源とする直下型地震が発生した場合には、平成町周辺は震度7の激しい揺れに見舞われる可能性がある。
- ・長周期地震動によって液状化が発生する可能性も高く、南関東地震（関東大震災型の再来）や三浦半島断層群による地震が発生した場合には、液状化と地盤沈下が危惧されている。
- ・2015年3月10日に神奈川県が公表した「神奈川県津波浸水予測図」によると、地震発生から20分後に3.6mの最大波高が平成地区に到達する。
- ・到達した津波が陸地を遡上した時の浸水深のうち、最も過酷な想定では、ソフィアステイシアの敷地内で1.0m～2.0m、ソフィアステイシアの外周市道やシーパークス、県立大学の敷地内で2.0m～3.0m、安浦コミュニティセンターやリーデンス・コート、ザ・タワーハウスの敷地内では3.0m～4m浸水すると予測される。

2. 当地区における従来の取組状況（支援前）

- ・自主防災会は、自治会と管理組合による共同編成組織として2005年に発足した。



上：ジュニアレスキュー
(2013に発足)
下：防災訓練の様子

- ・自主防災会発足後、着実に防災活動を積み重ねている。

〈主な取組〉

自己財源と横須賀市の補助金による防災資機材の備蓄（1,500万円相当）

居住者台帳により災害時要援護者の情報を100%把握

年1回の防災訓練（非常に高い参加率）

防災読本「ソフィアステイシア危機管理マニュアル」作成、全戸配布等

- ・居住者のなかから専門知識や実務経験を有する人材（コンサルや医療・保健・福祉等の経験者等）の発掘や活用を行っているのも大きな特徴である。



3. 当地区の取組内容（支援後）

(1) 計画作成の体制

- ・自治会と管理組合の平成26年度総会において、地区防災計画策定委員会の設置を議決した。
- ・平日昼間の発災にも初動対応・応急対応が可能な策定委員（11名）、現役世代の消防官・自衛官・看護師などからなるアドバイザー（6名）を任命し、業務遂行体制を構築した。
- ・毎月2回の定例委員会の他、必要に応じて臨時委員会を開催した。

(2) 計画の作成状況

- ・既に「住民共助の防災読本：ソフィアステイシア危機管理マニュアル」※が作成されており、それをベースにしながらより深化させる形で地区防災計画作成に向けた取組が進められた。

※住民共助の防災読本：ソフィアステイシア危機管理マニュアル

自然災害、マンション火災、住民が遭遇する可能性がある事件・事故、感染症、熱中症などに対して危険予知と危機回避（リスクマネジメント）、被害の最小化（クライシスマネジメント）について具体的に記述した冊子



(3) 地区の課題

- ・地区の課題として、発災直後から1週間程度の対応イメージ、在宅避難生活等が挙げられた。これらについては、12月に実施した総合防災訓練で、津波被害を受けた場合や津波被害がなかった場合等の想定シナリオを作成し、津波の有無により、災害対策本部や応急救護所、臨時避難所、給食拠点の設置場所を変更する。
- ・災害時要援護者については、居住者台帳を2005年から整備しており、居住者の避難誘導、災害時要援護者の避難支援、傷病者の救助・救護などの役割分担等についても、予め作成したシナリオに基づく訓練を通じて、防災訓練実施要領通りに進行した事項、人員配置や所要時間等に改善を要する事項を峻別し、次年度の訓練要領に反映する。
- ・総合防災訓練等の結果から課題を検証した後、「ソフィアステイシア地区防災計画案」を作成した。
 - ①マンション管理規約を災害対応型規約に改正した。
 - ②発災直後から1時間後、翌日昇時まで、翌々日の日昇時まで…以下1週間後までの災害対応行動を具体的に明記した。
 - ③災害対応行動を、家庭毎に実施すること、避難誘導班毎に実施すること、マンション全体で実施することに分類して明記した。
 - ④自主防災会の班構成を従来の5班編成（避難誘導班・情報班・消火班・救出救護班・給食給水班）から10班編成（避難誘導班・情報班・消火班・救助班・救護班・設備復旧班・警備班・給食給水班・生活支援班・衛生管理班）に改編した。
 - ⑤5カ年計画で災害対応資機材・生活継続資材を整備すると共に、建物・設備の脆弱性克服投資を行うこととした。

4. 成果及び今後のスケジュール

- ・ソフィアステイシア地区防災計画を横須賀市防災会議に計画提案し、横須賀市地域防災計画に組み入れる。(H27年度)
- ・「ソフィアステイシア地区防災計画」の理念と具体的取組を周辺地域に普及し、今後は「よこすか海辺ニュータウン地区防災計画」に発展させる。(H27～H29年度)

【参 考】

ソフィアステイシア自治会 居住者台帳						
ソフィアステイシア自治会長殿					平成 年 月 日 現在	
私は、自治会会則及び自治会居住者台帳細則に同意し、本届出書を提出致します。 号室 世帯代表者 印						
1 棟別区分(・ファースト・セカンド・サード・フォース)該当に丸印 居住階 階 自宅電話番号 046— —						
2-1	居住者氏名 世帯代表者	性別 男 女	自力避難に支障のある事項	常用薬(毎日服用している薬)	禁忌薬(飲んではいけないと言われている薬)	
	生年月日 (西暦) 年 月 日	血液型 A B AB O	かかりつけ病院名	病院等の電話番号	病院などの所在地	
	緊急連絡先		携帯電話番号	携帯メールアドレス	帰宅困難者に(該当・非該当)(いずれかに○印) 昼間の主な居留場所・所在地:	
	勤務先等		名称: 電話番号	PCメールアドレス		
	(西暦) 年 月 日					
2-2	居住者氏名	性別 男 女	自力避難に支障のある事項	常用薬(毎日服用している薬)	禁忌薬(飲んではいけないと言われている薬)	
	生年月日 (西暦) 年 月 日	血液型 A B AB O	かかりつけ病院名	病院等の電話番号	病院などの所在地	
	緊急連絡先		携帯電話番号	携帯メールアドレス	帰宅困難者に(該当・非該当)(いずれかに○印) 昼間の主な居留場所・所在地:	
	勤務先等		名称: 電話番号	PCメールアドレス		
	(西暦) 年 月 日					
2-3	居住者氏名	性別 男 女	自力避難に支障のある事項	常用薬(毎日服用している薬)	禁忌薬(飲んではいけないと言われている薬)	
	生年月日 (西暦) 年 月 日	血液型 A B AB O	かかりつけ病院名	病院等の電話番号	病院などの所在地	
	緊急連絡先		携帯電話番号	携帯メールアドレス	帰宅困難者に(該当・非該当)(いずれかに○印) 昼間の主な居留場所・所在地:	
	勤務先等		名称: 電話番号	PCメールアドレス		
	(西暦) 年 月 日					
3	緊急時連絡先氏名	世帯主との続柄	住 所	電話番号	携帯電話番号	

※台帳記入上の留意事項: (1)同居家族が4名以上の場合は、裏面に記入してください。
 (2)自力避難に支障のある事項とは、避難援助方法選択のため、寝たきり・車椅子使用・杖使用など具体的に記入して下さい。
 (3)かかりつけ病院名等の欄は、持病等の理由でかかりつけの病院がある方、常用薬がある方は全員記入して下さい。

- 世帯別・個人別に、
- ・ 生年月日
 - ・ 性別
 - ・ 血液型
 - ・ 既往症
 - ・ 常用薬
 - ・ 禁忌薬
 - ・ 掛かりつけ医療機関・診療科目
 - ・ 担当医
 - ・ 自力避難に支障ある理由
 - ・ 帰宅困難者に該当するか否か
 - ・ 被災時の滞在地
- などを居住者が自己申告するシステム
(2015年2月現在の届出率 96%)



アドバイザーを交えた意見交換



防災訓練の様子